

慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 患者の心理特性の把握

病期によるパーソナリティの比較検討

○中川明仁 (同志社大学心理学部・はがくれ呼吸ケアネット)・堀江淳 (京都橘大学健康科学部・はがくれ呼吸ケアネット)・江越正次郎 (医療福祉専門学校緑生館・はがくれ呼吸ケアネット)・松永由理子 (佐賀大学医学部)・宮原一三 (佐賀大学大学院医学系研究科)・高橋浩一郎 (佐賀大学医学部・はがくれ呼吸ケアネット)・林真一郎 (高邦会高木病院・はがくれ呼吸ケアネット)

キーワード：慢性閉塞性疾患 (COPD), パーソナリティ, エゴグラム

目的

慢性閉塞性肺疾患 (Chronic obstructive pulmonary disease; COPD) は、たばこ煙を主とした有害物質を長期間にわたって吸入曝露することで生じる肺の炎症性疾患である。長期の喫煙歴がある中高年者に多く発症し、労作時の呼吸困難や慢性の咳、痰などの症状を呈する。これらの症状は QOL にも影響することから、包括的な管理を行うことが必要とされている。COPD の病期分類は、最大呼吸時により、呼吸能力を調べるスパイロメトリーにより判定される。COPD の管理目標は、症状・QOL の改善および運動耐容能・身体活動性の向上などである。身体活動性を向上させ運動耐容能を改善させるため、呼吸リハビリテーションが行われる。呼吸リハビリにより COPD 患者の症状や QOL の改善が期待される。しかし、リハビリを継続することができる者ばかりではない。治療への取り組みが不十分なため病期が進行してしまうこともある。

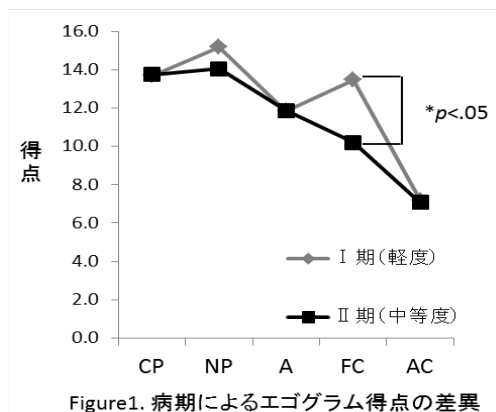
本研究では病期が進行した状態にある者とそうでない者の心理特性の違いを探索的に検証し、COPD の病期が進行した者に特有なパーソナリティが存在するのか明らかにすることを目的とした。

方法

1. 研究協力者 COPD 病診連携型プロアクティブリサーチシステムにエントリーしている COPD 患者 38 名 (男性 33 名・女性 5 名; 平均年齢 79.0 ± 7.78 歳) を対象とした。2. 調査内容 フェイスシート: 年齢, 性別および家族構成 (独居・夫婦のみ・2 世帯同居・3 世帯同居・その他) について尋ねた。エゴグラム: 東京大学医学部心療内科 (2002) が開発した東大式エゴグラム (Tokyo University Egogram: TEG) を使用した。53 項目から構成され, 5 つの自我状態を測定し, 「はい」「どちらでもない」「いいえ」の 3 件法で評定を求めた。ストレス反応: 鈴木ら (1997) による新しい心理的ストレス反応尺度 (SRS-18) を使用した。18 項目から構成され「抑うつ・不安」「不機嫌・怒り」「無気力」の 3 因子を測定し, 4 件法で評定を求めた。3. 手続き 全ての検査は京都橘大学倫理委員会の承認を受け, 対象者に対して研究参加への同意を文書で得た上で行われた。心理検査は病院内の一室にて対象者との対面にて施行された。心理特性の評価の他に理学療法士による身体活動量の評価も行われた。

結果

スパイロ検査の結果, 軽度の気流閉塞 (I 期) が認められた者が 22 名, 中等度の気流閉塞 (II 期) が認められた者が 16 名であった。病期によるエゴグラムの得点の差異を検討するために対応のない t 検定を行った。その結果, 自我状態の FC において II 期群が有意に低い得点を示した ($t(34)=2.68, p<.05$)。その他の自我状態およびストレス反応については病期による有意な差は見られなかった。また, 病期を問わず COPD 患者のパーソナリティとして, AC が低位となる傾向が見られた。



また, 配偶者の有無と病期との関連を χ^2 検定により検討した結果, 有意な偏りは認められなかった。

考察

本研究の結果より, COPD が進行した状態に至っている者ほど, 感情の表出性や楽観性に乏しい一方でストレス反応の程度に違いは見られないことが示された。感情の表出がなされないことでストレスが蓄積しているとはいえませんが, 病期が進行することで, 楽観的に思考することが少なくなっていることが考えられる。自分自身の状態を冷静に客観的に見ることができるとも考えられる。また, 病期によらず AC が自我状態の中で最も低くなっていることから, リハビリ時の医療者側からの指導を素直に聴くことに抵抗を示す者が多いと考えられた。

利益相反開示; 発表に関連し, 開示すべき利益相反関係にある企業・団体はありません。

(NAKAGAWA Akinori, HORIE Jun, EGOSHI Shojiro, MATSUNAGA Yuriko, MIYAHARA Kazumi, TAKAHASHI Koichiro, HAYASHI Shinichiro)